

関東学院大学女子クラスにおける建設業界への女性進出の先駆け的事例

清水建設株式会社 正会員 ○白木綾美
 関東学院大学 正会員 中藤誠二
 関東学院大学 喜田愛子

1. はじめに

近年、女性の社会進出が目覚ましい。建設業界も例外ではなく、大学の土木系コースに進学する女子学生が増えており、それは建設現場等で働く女性技術者の増加にも現れている。

今では建設業界で働く女性を「けんせつ小町」と呼んでいるが、それ以前は「どぼじょ（土木女子の略）」と呼ばれることが多かった。この愛称が親しまれるきっかけになったのが、1987 年度に設立された関東学院大学（以下 KGU）工学部土木工学科「女子クラス」である。

本論では、「女子クラス」の設立から廃止に至るまでの経緯、女子クラスが発起人となって立ち上げた「全国土木系女子学生の会」の活動実績について紹介する。一般の方々に「どぼじょ」を広く PR する等、両者が果たした役割について、当時 KGU に在籍し、かつ全国土木系女子学生の会初代会長を務めた立場で報告する。

2. KGU 女子クラスの設立から廃止に至るまでの変遷

1986 年に始まったバブル経済の影響から、土木工学科の卒業生は、建設会社や官公庁だけでなく専門外の金融機関等に就職することが珍しくなかった。また、建設業界は深刻な人手不足に悩んでいた。一方、1992 年をピークに 18 歳人口は減少することが予測されていたため、各大学では学生獲得につながる特色を出そうとしていた（図-1）。そのような背景の中、生活基盤の利用者に男女の区別がないにもかかわらず、整備する側の女性が僅かであることに、KGU 関係者は疑問を感じていた。そこで、KGU は 1987 年度に、工学部土木工学科内に「女子クラス」を設立した。この試みにより KGU 関係者は多くの大学から「女子クラスのおかげで、女子の入学が増えた」と声をかけられた。

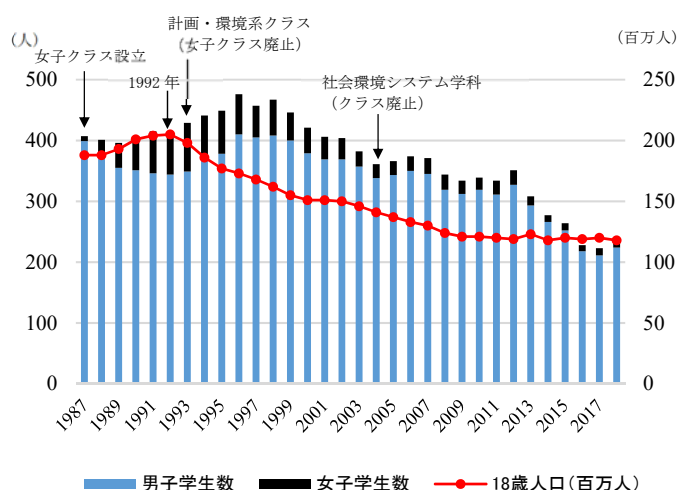


図-1 KGU 土木工学会男女学生数と 18 歳人口推移

土木工学科への女子学生の取り込みの先駆け的役割に少なからず貢献したという KGU の判断により、女子クラスは 1993 年度の入学生を最後に廃止となったが、その後も体系を変えながら 2018 年度（2019 年 3 月）までの 30 年間に、270 人以上の卒業生を輩出した（図-1）。

3. 全国土木系女子学生の会

女子クラスを語るうえで忘れられないのが、1987 年度に発足した「全国土木系女子学生の会」である。KGU が幹事大学となり、「各大学で土木を学ぶ女子学生のネットワークを作ろう」をスローガンに様々なイベントを行った。1988 年度に全国の土木工学科を有する大学にアンケート調査を行った結果、全国に約 150 名の土木系女子学生がいることが確認できた。同時に、これは全国の土木系学生の 1% にも満たないことも判明し、本会の必要性を再認識する結果となった。

顧問には土木系女子学生が複数在席する大学から、内藤幸穂教授（関東学院大学）、宮村忠教授（同左）、高橋裕

キーワード 全国土木系女子学生の会 どぼじょ 作業着 ファッションショー

連絡先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 関東学院大学理工学部 TEL 045-786-7752

教授（芝浦工業大学）、三浦裕二教授（日本大学）が選出され、本会の活動に力を添えた。

主な活動内容の1つに、土木の日に合わせた総会の実施が挙げられる。第1回総会（1987年度）には63名が参加した。第2回総会（1988年度）には92名が参加し、時代に先駆けて女子学生のデザインによる現場作業服のファッションショーを開催した。この活動は官公庁や建設業界の他、マスコミからも大きな注目を集めた（写真-1）。



写真-1 ファッションショーの様子

また特筆すべきは、これらの活動を通して、建設業界のPR活動に貢献し、女子学生の土木分野への進出を後押ししたことが評価され、1989年第1回 STUDENT of the YEAR（文化部門）を受賞したことである。

女子学生が本来の学業と本会の活動を両立させるのは、容易ではなかった。授業の合間に企業へ電話を掛けアポイントが取れると、授業のない学生が2～3名のチームになり会社訪問をした。学生に耳を傾けてくれる企業ばかりとも限らず、それぞれ傷心や挫折を感じながら帰宅することもあった。その度に我々は、なぜ交渉が成立しなかったのかを話し合い再交渉へと臨んだ。そして1つでも多くの企業から協力を頂くことを目標に、総会の日まで精一杯努力する日々を送った。

このような総会の企画・運営などの経験が、就職後大いに役に立っているとの意見が、卒業生から聞こえてくる。現代のようにSNS等のIT環境が充実していれば、もっと効率的に進められたかもしれない。しかし言い換えれば、直接会って話をすることで我々の思いが伝わり、多くの方々の協力を得ることができたともいえる。

本会は、2009年第22回総会をもって活動を終了したが、当初の目的であった女子学生同士の親睦、土木工学分野のPR活動など、一定の成果をあげたものと自負している。なお現在はその意志を引き継ぎ、KGUのみで地元の子供たちを対象に「アート泥だんご with 『どぼじょ』」などを開催し、参加者から好評を得ている。

4. まとめ

建設業界において活躍する女性はこの30年間で増加し、現場所長やトンネル工事従事者になることも珍しくない。当時我々が「女性がいることが当たり前の建設業界にしよう」「現場のトイレをきれいにしよう」「ベビーカーがスムーズに通れる道路にしよう」と声を上げてきたことが、今実現されてきている。また当時の学生が親世代になり、建設業界に女性が進出することや身近に卒業生がいることで、「けんせつ小町」に違和感がなくなっていることも確かである。近い将来「どぼじょ」や「けんせつ小町」の名称がなくなり、女性土木技術者から「女性」が外れる日が来ることを願う。女子クラスが存在と全国土木系女子学生の会の活動が、建設業界で働く女性の活性化のみならず、業界全体のPR、発展と活躍につながれば幸いである。

※本文中の団体名および役職は当時のものである。

参考文献

- 1) 内閣府：18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 <https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon5/1kai/siryo6-2-7.pdf>
- 2) 佐藤尚次：「土木学会・全国土木系女子学生の会」が発足，土木学会誌，1989年1月号，1989
- 3) 昌子住江：土木学会の80年 土木学会と私 36. 関東学院大学土木工学科女子クラスの試み，土木学会，1994
- 4) 中藤誠二：女性参画への土木分野の大学教育における取り組みと今後の課題，土木学会第71回年次技術講演会，CS9-003，2016
- 5) 白木綾美，大山幸子，喜田愛子，中藤誠二：The Role and Challenges of Girl's Class in Civil Engineering - Kanto Gakuin University -，第8回アジア土木学協会連合協議会，2019